

Emergency



Watch



神戸こども初期急病センター

2016年12月受診者数

3253人

【疾患頻度】

1. 感染性胃腸炎	: 926人
2. 急性上気道炎・感冒	: 735人
3. インフルエンザ（疑い含む）	: 389人
4. 咽頭炎	: 189人
5. 気管支喘息・喘息性気管支炎	: 158人

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお祈りします。

年末年始いかがお過ごしでしたでしょうか？集計にありますように、12月はノロウイルス等のウイルス性感染性腸炎が大流行でした。また、インフルエンザもではじめ、流行のきざしがあります。

このインフルエンザには治療薬があります。そこで今回は、インフルエンザの治療薬に関する最近の動向につき、取り上げたいと思います。

1. タミフルが1歳未満の乳児にも使用可能となりました

幼児がインフルエンザに罹患するとタミフルが処方されます。このタミフルは、今まで「1歳未満の新生児・乳児には安全性・有効性が確立されていない」として、保険承認されていませんでした。2009年のパンデミックインフルエンザがあり、世界中で1歳未満の児にも緊急的に使用が認められました。それをきっかけに1歳未満の児にタミフルを使用した場合の実態が明らかになり、2012年に米国で1歳未満の児がインフルエンザに罹患した場合にもタミフルの使用が承認されました。それから約4年遅れましたが、我が国でも厚生労働省等で検討され、2016年11月24日から保険適用下で使用可能となっています。

2. 10歳以上の未成年の患者に対するタミフルの使用差し控えは継続

厚生労働省の研究班で、インフルエンザ罹患に伴う異常行動の研究が実施されています。最近の重度の異常行動の発生状況について、従来のインフルエンザ罹患患者における報告と概ね類似している事が確認されています。異常な言動の他に飛び降りなど、結果として重大な事案が発生しかねない報告も依然存在します。抗インフルエンザウイルス薬の種類、使用の有無と異常行動については、特定の関係に限られるものではないと考えられます。引き続き、異常行動に関する注意喚起を徹底するとともに、現時点では、10歳以上の未成年の患者に対するタミフルの使用差し控えについては継続することになっています。

3. 乳製品過敏症の既往のある患者へのイナビル・リレンザの投与にはアレルギー反応の出現に注意

学童によく処方される吸入の抗インフルエンザ薬であるイナビルやリレンザがあります。イナビルおよびリレンザはともに、乳蛋白を含む乳糖水和物が微量含まれています。乳製品へのアレルギーがある患者への投与でアナフィラキシー（重篤なアレルギー反応を引き起こした）が報告されています。2015年8月6日以降、乳製品過敏症の既往のある患者へは「慎重投与」となっています。